

一貫教育校の広場

逆境の向こうに「光」

● 高等学校体育科 教諭・バレーボール部 部長

渡辺大地 わたなべ だいち

新型コロナウイルス感染拡大。2020年3月2日、学校から「全クラブ活動停止」の連絡が入った。この日を境に苦しい戦いが始まる。

慶應義塾高等学校バレーボール部は創部72年を迎え、春の高校バレー出場を目標に活動をしている。昨年2020年1月、春の高校バレーに2度目の出場を果たし、大会終了後、新チームとなった。前回の大会でベスト16という結果を残した選手たちは、今まで掲げていた春高バレー「出場“から”ベスト8“へとより大きく目標を設定した。

新チームでの活動が始まり、早々に行われる神奈川県新人戦では、エースが負傷するというトラブルがあり惜しくも優勝は逃すも、県で準優勝という結果を残した。「今年も行ける！ 今までの慶應とは違う。全国でも勝負ができる！」と、私を含め部員全員がそう感じていた。2020年2月末、学校行事が終了し全体練習を再開させる。選手たちはいつにもなくモチベーションが

高く3月からの練習に向けて意気込んでいた。しばらく体を動かしていなかったこともあり自主練習から始め、本格的にトレーニングを行う予定でいた。しかし、2020年3月2日、全クラブの活動停止の連絡を受ける。

3月2日。「コロナ感染拡大の影響で体育館を使用している練習は本日から停止する」。そう選手に伝え解散した。その頃コロナウイルスの脅威を目の当たりにしていない私



2020年 春の高校バレー予選にて

ちは、感染拡大はすぐに収まり、活動再開できるだろうと考えていた。しかし4月を迎えても一向に収まる気配はなく、関東大会、インターハイの中止を受け、残る大会は春高バレーのみとなり、絶望的な気持ちであった。全体練習が再開できたのは8月1日、活動停止になってから約半年後のことである。開催されるか分からない大会に向けて新たに目標を設定した。11月の春高県予選まで3カ月しかない状況下、感染防止対策を徹底しての活動再開となったが、例年のように対外試合を十分に行うことができず、今までと違う環境に戸惑いながらも練習を進めていくしかなかった。中にはモチベーションが上がらず、目標を見失ってしまう選手や、真剣にバレーボールに向き合えなかった選手もいた。その状況の中でも全国大会出場に向けて誰一人欠けることなく諦めずに、がむしゃらに練習に打ち込んでいった。

2020年11月15日春高予選最終日。3日間わたる激戦を制し、2年連続3回目の春高バレー出場を決めた。続く本戦では、2年連続ベスト16という結果で幕を閉じた。

いっどこで夢が途切れるか分からない状況の中、どんな逆境でも諦めず前に進み、成功をつかむ選手たちの輝かしい姿を目の当たりにし、「諦めずに進めば成功をつかむことができる」とあらためて確信した。この苦しい1年間を光り輝く1年に変えてくれたバレーボール部員を尊敬し、誇りに思う。

幼稚園

横浜初等部

普通部

中等部

湘南藤沢
中等部・高等部

高等学校

志木高等学校

女子高等学校

ニューヨーク学院
(高等部)